

各関係機関団体の長
各 病 害 虫 防 除 員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福 岡 県 病 害 虫 防 除 所)

令和2年度病虫害発生予察注意報第1号について

本年はチャバネアオカメムシの越冬成虫数が多く、5月以降予察灯やフェロモントラップの誘殺数が増加している。

本年と同様に越冬虫数が多い2012、2014、2018年は、7月下旬～8月上旬にかけて予察灯・フェロモントラップともに成虫誘殺数が増加し、特にナシで被害を生じたので、誘殺数が増加する時期と量に留意する。

また、例年チャバネアオカメムシの次に発生量が多いツヤアオカメムシも、地域によっては成虫誘殺数が多いため、今後の誘殺状況には十分注意する。

注意報第1号

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 発生地域：県下全域
- 4 果樹園への飛来ピークと飛来時期の発生量
：7月下旬～8月上旬、前年より多（2012、2014、2018年並）

5 注意報の根拠

（1）越冬成虫数（1月調査）

県下31地点の常緑広葉樹林下落葉中における1㎡当たりの越冬成虫数は5.0頭/㎡で、前年（0.8頭/㎡）より多く、7月5半旬～8月2半旬にナシでの被害が比較的多かった2018、2014、2012年並であった。＜表1および「令和2年2月19日発表、令和元年度注意報第4号」参照＞

（2）フェロモントラップによる成虫誘殺数（4月1半旬～5月6半旬）

4～5月のチャバネアオカメムシの誘殺数はうきは市750頭と、トラップを設置した過去7年間で最も多かった。また、筑紫野市は1,208頭と、過去10年間で3番目と多く、春・夏期（4月～8月3半旬）に多発した2018年並であった。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数（4月1半旬～5月6半旬）
(単位：頭)

	2012年	2014年	2018年	2019年	2020年
宗像市	144	146	175	25	1
筑紫野市	6,235	6,734	1,426	68	1,208
うきは市	－	290	218	338	750
八女市	－	62	90	8	13

(3) 予察灯による成虫誘殺数（4月1半旬～5月6半旬）

4～5月のチャバネアオカメムシの誘殺数は八女市 3,107 頭、朝倉市 457 頭と、過去 10 年間で最も多かった。また、同様に久留米市、筑紫野市は同様に過去 10 年間でそれぞれ 2 番目、4 番目と多く、春・夏期（4月～8月3半旬）に多発した 2018 年及び 2014 年、2012 年並であった。

また、筑紫野市ではツヤアオカメムシの誘殺数が 1,912 頭とチャバネアオカメムシより多かった。

表2 予察灯によるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数（4月1半旬～5月6半旬）

	(単位：頭)				
	2012 年	2014 年	2018 年	2019 年	2020 年
飯塚市	14	31	694	22	10
筑紫野市	1,471	2,573	1,155	92	1,010
朝倉市	34	74	233	23	457
久留米市	205	783	463	27	674
うきは市	0	49	17	2	48
八女市	185	247	2,439	505	3,107

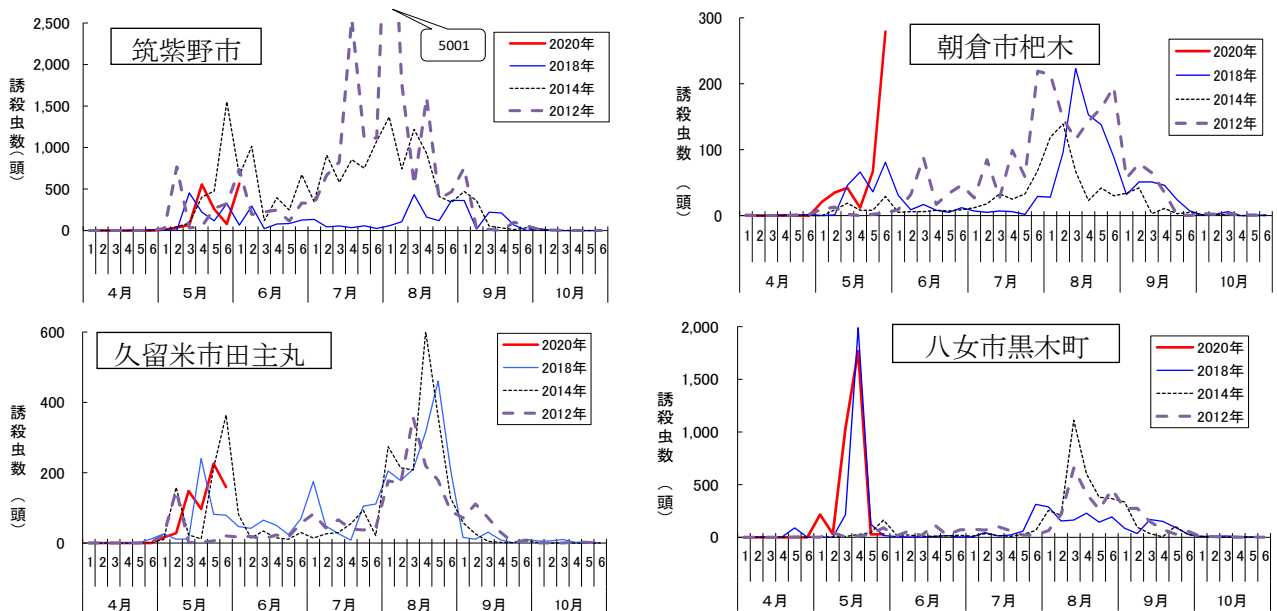


図1 チャバネアオカメムシの予察灯における成虫誘殺数の推移

(4) ヒノキ球果着生量（5月下旬～6月上旬調査）

チャバネアオカメムシの主要な餌であるヒノキ球果の着生量は「少（2.0）」で、前年「中（3.8）」より少なく、2012 年並に少なかった（表3、4）。

表3 越冬成虫数及び成虫誘殺数、ヒノキ球果着生量、ナシ被害果の年次推移

年/項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2010～19 平均	
越冬成虫数(頭/㎡)	2.1	0.6	3.2	0.7	4.8	0.9	0.8	0.9	3.8	0.8	5.0	2.1	
春・夏期の誘殺数	予察灯	1,209	545	4,372	392	3,493	150	252	633	1,860	152	(884)	1,306
	フェロモントラップ	890	1,355	16,926	553	18,151	238	344	516	2,633	38	(748)	4,164
ヒノキ球果着生量	やや少	中	少	中	中	やや少	やや少	やや多	中	中	少	中	
	3.0	4.5	2.2	4.1	3.5	2.8	2.8	5.0	4.4	3.6	2.0	3.4	
ナシ定点 被害果率 (%)	5月5半旬	0.2	0.1	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0.1
	6月5半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	—	0.0	
	7月5半旬	0	0	0.3	0	0.3	0.1	0.5	0.2	0.3	0.2	—	0.2
	8月2半旬	0	0	1.3	0.3	1.1	0	0.2	0.3	0.7	0.3	—	0.4

注1)「—」は未調査

注2) 2020年の春・夏期誘殺数()は4月1半旬～5月6半旬の値

注3) 越冬量(約30地点、1月初～末調査)は常緑広葉樹林の落葉下の越冬成虫数(1㎡当たり)

注4) 春・夏期誘殺数は予察灯が6ヶ所、フェロモントラップが2ヶ所の、4月1半旬～8月3半旬の平均誘殺数

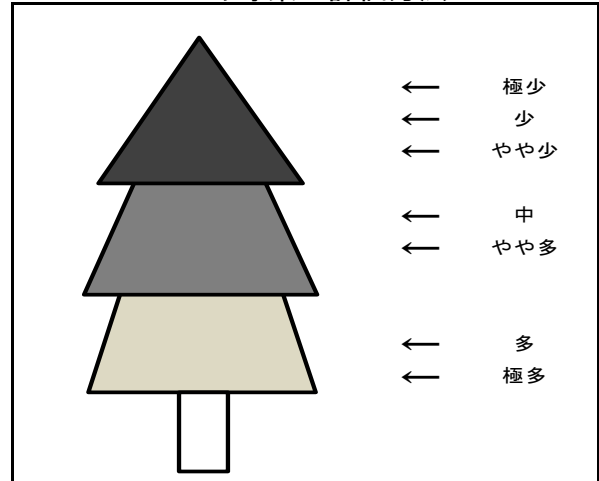
注5) ヒノキ球果着生量(約30地点、5月5半旬～6月2半旬調査)はヒノキ球果の豊凶基準に基づき、極少を1～極多を7として、全体の平均値を算出

注6) ナシ被害果率は約10地点の各100～300果平均(無袋赤梨)

表4 ヒノキ球果結実量達観調査結果（2020年）

評価場所	調査結果	
	評価	値
筑前町炊田①	極少～少	1.5
筑前町炊田②	極少～少	1.5
朝倉市長谷山	極少	1.0
朝倉市柿原	少	2.0
朝倉市三奈木	少	2.0
朝倉市烏集院	少	2.0
朝倉市宮野	中	4.0
朝倉市須川	やや少	3.0
朝倉市志波①	中	4.0
朝倉市志波②	極少	1.0
うきは・久留米地域		
久留米市田主丸町益生田	極少	1.0
久留米市田主丸町石垣	極少	1.0
久留米市田主丸森部	極少	1.0
うきは市福益①	極少	1.0
うきは市福益②	少	2.0
うきは市吉井町屋部	極少	1.0
うきは市小塩	少	2.0
八女地域		
広川町梯	極少～少	1.5
八女市長野	極少～少	1.5
八女市黒木町今	極少	1.0
八女市黒木町野田山	少	2.0
八女市立花町飛形山①	極少	1.0
八女市立花町飛形山②	少	2.0
八女市立花町白木	極少～少	1.5
みやま市山川町河原内	少～やや少	2.5
みやま市山川町立山	少	2.0
福岡・飯塚・行橋		
筑紫野市山家	少	2.0
筑紫野市吉木	少～やや少	2.5
筑紫野市天山	極少～少	1.5
福岡市西区吉武	少	2.0
糸島市本	少	2.0
糸島市高祖	極少～少	1.5
宗像市山田	少～やや少	2.5
宗像市王丸①	少	2.0
宗像市王丸②	やや少～中	3.5
古賀市青柳	極少～少	1.5
飯塚市庄内町山倉	極少～少	1.5
飯塚市庄内町高倉	やや少	3.0
みやこ町勝山久保	中～やや多	4.5
みやこ町犀川大阪	極少	1.0
みやこ町犀川木山	極少	1.0
みやこ町犀川下高屋	中	4.0
全体	少	2.0

ヒノキ球果の評価方法



評価（値）	ヒノキ球果着生量(豊凶)判断基準
極少 (1.0)	一部の樹では上部に球果が見られるが、多くの上部には球果がない。
少 (2.0)	球果がまったく見られない樹も見られるが、多くの樹の上部には球果がある。
やや少 (3.0)	球果がまったく見られない樹もあり、多くの樹の上部には球果があり、一部の樹では中央部にも見られる。
中 (4.0)	中央部まで球果が見られる樹が多い。
やや多 (5.0)	多くの樹では中央部までたくさんの球果が見られ、一部は下部にも球果がある。
多 (6.0)	下部まで球果が見られる樹が多い。
極多 (7.0)	ほとんどの樹で下部までたくさんの球果が見られる。

※できるだけ多くの樹木を見て総合的に評価

※ヒノキ球果の豊凶基準に基づき、極少を1～極多を7として、全体の平均値を算出

※松本ら(2001)ヒノキ花芽分化期の気象条件によるチャバネアオカメムシの発生量の早期予測法 九病虫研会報 47:128-131 より

6 防除上注意すべき事項

(1) 越冬成虫数が多くヒノキ球果結実量が少ない年(例 2012 年)は、ナシ等での被害の発生時期が早く、被害量も多くなる傾向があるため、誘殺数が増加する時期と量に留意する。

(2) 果樹園への飛来時期と量は地域により異なる。

また、同一園内でも被害発生状況は偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、果樹園への飛来が多い場合は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守し薬剤防除を行う。

(3) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ病害虫の発生状況を参照する。

<<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況